

平成19年第4回定例会（12月）一般質問（要旨）

（1）町民の移動手段の確保について

質問・宮下

月形町の公的な移動手段は、町外へはバスやJR、町内ではスクールバス混乗や福祉タクシーがあります。しかし運行数が少ない、利用に制約や条件があるなど利用しにくい状態です。このため自家用車を持たない人や福祉の要件に満たない人は不便を強いられ、その代表格が高齢者です。高齢化の進む月形町において移動手段の確保は、今後益々重要な課題になります。

一方、月形町には民間タクシーがあり公共交通を補っていると考えますが、厳しい経営を強いられていると聞きます。もし現事業者が廃業することになれば、再度民間による営業再開は考えられません。そこで町長に質問します。

1. 月形町における、タクシー事業の位置づけ。
2. H18暮れにタクシー事業者が廃業してから、H19春に別事業者が開業するまでに行った行政支援の内容。
3. 町として、タクシー事業を支援し経営を安定化させさせる考えは。
4. 私個人の支援アイデアについての感想や意見
 - 黒松内町の『お出かけサポート券事業』
 - 役場公用車の一部をタクシーで賄い、台数を減らす（財政改革に繋がる）

回答・町長

1. 町としてもタクシーは準公共交通機関として認識している。
2. タクシー事業の継続に地元業者が手を挙げたが、審査基準に当てはまらず許可にならなかった。そこで町はH19年1月から北海道運輸局に相談・働きかけをし、3月に審査基準の一部改正、6月から営業再開となった。金銭的な支援は全くしていない。
3. 行政として直接的な金銭支援はできないが、一部委託などができるか検討中。タクシー事業者には今後も民間としてやって欲しい。
4. 『お出かけサポート券事業』には福祉という観点で興味がある。公用車の関係は、タクシーで間に合うのか、財政改革に繋がるのか、疑問が残る。